

乳幼児を対象とした今後の子育て支援施策
及び放課後の居場所作りのあり方について
(答申)

令和5年1月

墨田区子ども・子育て会議

(案)

答 申 書

令和5年1月31日

墨田区長 山本 亨 様

墨田区子ども・子育て会議
会長 西村 孝幸

令和4年5月25日付け4墨子支第383号で諮問のありました標記の件について、
別記のとおり答申します。

(案)

別 記

はじめに

墨田区子ども・子育て会議では、令和4年5月25日付け4墨子支第383号で諮問のありました、「乳幼児を対象とした今後の子育て支援施策」及び「今後の放課後の居場所作りのあり方」について、全体会議の他、乳幼児ワーキング、学齢ワーキングの2つの分科会を設け、より具体的な検討を行うと共に、合わせて子ども・子育てに関する今日的な課題について、包括的な議論を行いました。

その上で、論点整理のもと、方向性について一定の結論を得ましたので、ここに答申いたします。

ここには、各界を代表する委員の現場の意見が集約されております。今後の子ども・子育て行政にあたっては、本答申の内容も踏まえ、より実効性のある施策展開を望むものです。

尚、引き続き、墨田区子ども・子育て会議においては区内の子ども・子育て施策について、検討を重ねてまいります。

墨田区子ども・子育て会議
会長 西村 孝幸

I 乳幼児を対象とした今後の子育て支援施策について

1 保育施設における量の拡大から質の向上へ

待機児童解消に向けての保育施設の「量」の拡大が一定の成果をあげた今、今後は保育施設の「質」の向上が問われます。少子化による将来の保育需要の減少を見据え、保育園の定員割れ問題等、様々な課題について議論がなされました。

- 「公設保育所整備計画」や「ニーズ調査」を踏まえた、区内の保育施設全体のあり方の検討が必要です。また、各施設が安定的に運営できる為の仕組みの構築が必要です。
- 保育施設に関わる職員の負担軽減や勤務し続けられる体制の構築等による保育の質の確保や、より多くの研修の提供や研修受講機会確保のための園運営体制への支援が求められます。
- 「子ども主体の協同的な学び」事業に代表される、地域で保育の質を向上させていくような取り組みを今後も積極的に取り入れていくことが重要です。

2 様々な子育て支援施策の展開

子ども・子育てに関する課題の中で、特に「個別的支援が必要な子どもへの対応の強化」「在宅子育て家庭への支援」が大きな課題として議論がなされました。

- 個別的な支援が必要な子どもに対して療育機関の十分な供給量の確保や、療育機関と子育て関連施設とのより一層の連携強化、支援体制のあり方等、様々な角度から課題が挙げられています。又、この件については、子ども・子育て部門だけでなく、福祉部門、保健部門等、多くの部署が関係する問題でもあります。これを踏まえ庁内においても関係部署との連絡・調整機関の設置等による対策強化が急務です。
- 在宅子育て世帯の交流・相談場所について、利用者のニーズを踏まえた子育てひろば等施設及び相談機能の充実が求められます。特に都市部における子育ての課題でもある「子育ての孤立」の解消に向けた対応が必要です。

3 子ども・子育てに関わる利便性・安全性等の向上

墨田区においては多くの子ども・子育て支援施策を実施しており、一定の充実がすでに図られています。一方で、会議では、必要な情報の的確な提供について、多くの意見がありました。また、昨今の様々な報道を受けて子どもの利用する施設等の安全性についても議論がなされました。

- 墨田区では子育て支援アプリ等もすでに導入されていますが、子育て世帯に必要な情報を確実に届ける効果的な情報発信と、子育て世帯が必要としている情報をより平易に取得できる効率的な情報収集方法の仕組みの確立が求められます。
- 子育て関連サービスにおける手続きの簡素化や利便性の向上、電子化の推進が求められます。
- 子どもが利用する施設・場所（公園等の屋外施設も含む。）等の事故防止のための安全管理の徹底がより一層求められます。

Ⅱ 今後の子どもの放課後の居場所作りのあり方について

1 放課後のあり方に関する各団体の連携強化

子どもの放課後の居場所については、福祉部門、教育部門、地域団体等、様々な団体が関わることから、団体間の連携強化の観点から事業推進に関する議論がなされました。

- 「学童クラブ」や「放課後子ども教室」を中心に、子どもが安全・安心に過ごせる居場所作りについて、「墨田区放課後子ども総合プラン推進委員会」を積極的に開催し、課題の共有や改善に向けた対策など、継続的に検討していく必要があります。

2 放課後子ども教室における課題

放課後子ども教室は、地域の協力により成り立っている事業のため、学校により実施状況に差があります。格差解消のための課題の抽出や関係者間の情報共有の強化、そして何よりも担い手不足の解消に向けた議論がなされました。

- 町会や青少年関係団体等の各地域団体によるボランティアの活用や人材登録バンクの創設など、新たな担い手の確保が求められます。また、高齢者施策、地域福祉施策と連携した事業推進の検討も必要です。
- 担い手不足の解消には地域の事業理解や意識醸成が不可欠です。そのための効果的な情報発信が求められます。

3 学童クラブにおける課題

保育所待機児童の減少から、現在は学童クラブの定員不足が課題になっています。学童クラブの定員不足には、場所の確保という問題と職員の確保という問題が併存しています。場所の確保については、担当部局を中心にその解消に取り組んでいることが会議でも報告されました。そのため、会議では主に職員の確保について議論がなされました。

- 放課後児童支援員資格取得者数増加に繋がる支援が必要です。合わせて学童クラブ職員のブランディング戦略等により、職務の魅力向上を目的とした効果的な情報発信が必要です。

本答申に係る検討体制及び検討経過

1 検討体制

(1) 墨田区子ども・子育て会議委員名簿

区 分	氏 名	所 属
会 長	西 村 孝 幸	小梅保育園長
副 会 長	西 島 由 美	にしじま小児科院長
委 員	野 原 健 治	社会福祉法人興望館理事長
委 員	浅 見 佳 子	相模女子大学准教授
委 員	古 屋 真	駒沢女子短期大学准教授
委 員	八重田 裕一朗	墨田児童会館館長
委 員	岡 田 真	江東学園幼稚園長
委 員	小 林 恵 子	両国子育てひろば施設長
委 員	押 田 剛	主任児童委員
委 員	末 田 豪	立花吾孀の森小学校PTA会長
委 員	平 林 秀 敏	墨田中学校PTA会長
委 員	尾 口 優 子	青少年委員協議会委員
委 員	山 口 仁 美	両中地区青少年育成委員会委員長
委 員	種 窪 茉 莉	マミーズエンジェル墨田みなみ保育園施設長
委 員	賀 川 祐 二	NPO法人病児保育を作る会代表理事
委 員	山 内 好 恵	ル・アンジェ両国保育園施設長
委 員	佐 藤 雅 代	区民公募委員
委 員	真 能 貴 代	区民公募委員
委 員	谷津田 真 央	区民公募委員
委 員	横 田 絵 美	区民公募委員
委 員	宮 田 宏 子	立花幼稚園長
委 員	島 田 和 久	押上小学校長
委 員	佐 藤 順 一	吾孀立花中学校長
委 員	國 分 幸 美	花園保育園長

※ 敬称略、順不同

(案)

(2) 墨田区子ども・子育て会議ワーキンググループ別名簿

■乳幼児ワーキンググループ委員名簿

氏名
◎ 西村孝幸
西島由美
浅見佳子
岡田真
小林恵子
種窪茉莉
賀川祐二
山内好恵
眞能貴代
谷津田真央
横田絵美
宮田宏子
國分幸美

■学齢ワーキンググループ委員名簿

氏名
◎ 野原健治
古屋真
八重田裕一郎
押田剛
末田豪
平林秀敏
尾口優子
山口仁美
佐藤雅代
島田和久
佐藤順一

※ 敬称略、順不同、◎ワーキンググループ長

2 検討経過

(1) 乳幼児ワーキンググループ

	開催日	会議の主な内容
第1回	令和4年 7月26日	区の子育て支援施策の現状確認及び課題抽出
第2回	令和4年10月 5日	課題抽出及び主要課題選定
第3回	令和4年11月17日	課題に対する解決策の検討

(2) 学齢ワーキンググループ

	開催日	会議の主な内容
第1回	令和4年 7月27日	区の放課後対策の現状確認及び課題抽出
第2回	令和4年10月 5日	課題抽出及び主要課題選定
第3回	令和4年11月15日	課題に対する解決策の検討

(3) 子ども・子育て会議

	開催日	会議の主な内容
第1回	令和4年10月 5日	各ワーキンググループ検討状況報告及び意見聴取
第2回	令和5年 1月31日	答申内容の検討